

製品名: SLAMF1 (5K10) ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe17948**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,FC
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.5mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	ウサギ IgG（リン酸緩衝生理食塩水、pH 7.4、150mM NaCl、0.02% 新型保存料 N、50% グリセロール含有）。短期保存は+4°C、長期保存は-20°Cで保存してください。凍結融解サイクルは避けてください。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000, FC 1:50-1:100
分子量	37kDa

抗原情報

遺伝子名	SLAMF1
別名	CD150; CDw150; SLAM; SLAMF1;
遺伝子 ID	6504.0
SwissProt ID	Q13291
免疫原	ヒト SLAM の合成ペプチド

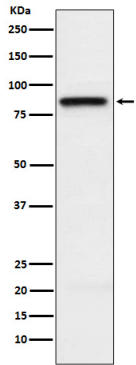
背景

T細胞からB細胞への双方向刺激において重要な高親和性自己リガンド。Tリンパ球におけるSLAM誘導シグナル伝達は、B細胞におけるそれとは異なります。シグナル伝達リンパ球活性化分子(SLAM)ファミリーの自己リガンド受容体。同種または異種の細胞間相互作用によって活性化されるSLAM受容体は、多様な免疫細胞の活性化と分化を調節し、自然免疫応答と獲得免疫応答の両方の調節と相互接続に関与しています。その活性は、細胞質内の小さなアダプタータンパク質であるSH2D1A/SAPおよび/またはSH2D1B/EAT-2の有無によって制御されます。Tリンパ球におけるSLAMF1誘導シグナル伝達は、B細胞におけるそれとは異なります。SLAMF1シグナル伝達には2つのモードが存在すると考えられています。1つはSH2D1A(およびおそらくSH2D1B)に依存し、もう1つはタンパク質チロシンホスファターゼ2C(PTPN11)依存性シグナル伝達です。当初、SH2D1Aとの結合により、INPP5D/SHIP1やPTPN11/SHP-2などの阻害性エフェクターへの結合が阻害されると提唱されていました(PubMed:11806999)。しかし、このシグナル伝達はSH2D1Aによっても制御されており、SH2D1Aは同時にFYNと相互作用してリクルートし、FYNはその後SLAMF1をリン酸化して活性化します(PubMed:12458214)。免疫応答において、活性化T細胞のIL-2非依存性増殖を媒介し、IFN- γ 産生を誘導します(類似性による)。下流シグナル伝達には、T細胞におけるIFN- γ 産生の抑制につながるINPP5D、DOK1、DOK2、およびT細胞活性化とTh2サイトカイン産生の増加につながるPRKCQ、BCL10、NFKB1が関与する(類似性による)。CD4(+)細胞によるT細胞受容体誘導性IL-4分泌を促進する(類似性による)。CD4(-)/CD8(-)T細胞において、抗原受容体を介したIFN- γ 産生を阻害するが、IL-2産生は阻害しない(類似性による)。胚中心濾胞性ヘルパーT細胞(T(Fh))によるIL-4産生に必要である(類似性による)。単球由来樹状細胞におけるCD40誘導性シグナル伝達を阻害する可能性がある(PubMed:16317102)。アレルギー反応に関与し、アレルゲン誘導性Th2サイトカインおよびTh1サイトカイン分泌を制御する可能性がある(類似性による)。SLAMF6と連携して、胸腺細胞ナチュラルキラーT(NKT)細胞系における正の選択とそれに続く増殖および分化との間の遷移を制御する。無関心ナチュラルキラーT(iNKT)細胞から制御性NKT2型への末梢分化に関与する(類似性による)。マクロファージでは、リポ多糖(LPS)に反応してIL-12、TNF- α 、および一酸化窒素のダウンレギュレーションに関与する(類似性による)。B細胞では、SH2D1Aとは独立してERKシグナル伝達経路を活性化するが、SYKとINPP5Dの両方に関与し、SYKとSH2D1Aに依存するAktシグナル伝達を活性化する(類似性による)。B細胞においてはp38MAPK、JNK1、JNK2も活性化する(PubMed:20231852)。CD84/SLAMF5およびSLAMF6と相乗的に作用し、体液性免疫応答の負の調節因子となる可能性がある(相同性に基づく)。マクロファージにおけるグラム陰性菌に対する自然免疫応答に関与し、細菌表面上のOmpCおよび/またはOmpFを認識し、ファゴソームの成熟およびPI3K複合体II(PI3KC3-C2)のリクルートメントを制御し、ファゴソームにおけるPdtIns(3)Pの蓄積およびNOX2活性を促進する(PubMed:20818396)。

研究分野

-

画像データ



Jurkat 細胞溶解物中の SLAMF1 発現のウェスタン プロット分析。